情報化と学生支援 ― 早稲田大学における展開と展望

縣　公一郎
（早稲田大学政治経済学術院教授
日本学生支援機構ＣＩＯ補佐官）

一　はじめに

情報化を、例えば、情報を利用するための環境と能力の整備と定義し、早稲田大学におけるその展開の中で学生支援を捉えてみると、狭義のカテゴリーである就職支援、奨学金、学生健康管理のみならず、学籍、履修管理といったparaeducationalな部分の支援へと、対象範囲が拡大してきていると言える。[1] そこで本稿では、**本学メディアネットワークセンター（ＭＮＣ）**からの資料提供に基づいて、[2] 本学がこの二〇年以上試みてきた情報化の展開を概観し、その上で実現された学生支援の現状を紹介して、今後の展望を試みたい。

二　情報化の展開

筆者が本学学部学生であった一九七〇年代後半頃から、穿孔機を利用したパンチカード入力形式で、コンピュータの活用とその講義が展開されていたが、八〇年にIBM4341が導入され、本学の情報化が本格始動した。本学でのその後の情報化は、一九九七年度以前、一九九七―二〇〇五年度の第一期情報化推進プログラム、及び二〇〇六―二〇一四年度の第二期情報化推進プログラム、これら

三期に分けて考えることができる。[3]

（一）一九九七年度以前

この草創期では、八二年に大学全般に関わる事務システムの確立に着手し、八三年には、五九年に設置され電子計算室とそれまで称していた学内担当部署を、**情報科学研究教育センター**として拡大改編した。八六年に全学部・大学院での学籍・履修のシステム処理が始まり、同年、一般的E-mailの先駆けである**BITNET**に加入、大学を母体としたメールの利用が教員の間で可能となり、八七年には、事務システムの一翼である教務事務システムが整備された。八八年には、BITNETからJUNETへ移行し、九〇年には、もう一翼である法人事務システムの構築を見て、事務システム全体が完成した。更に、九四年には、職員のPC環境は、一人一台が実現し、**オフィスワーク・システム（OWS）**という大学事務共通プラットフォームが導入された。九五年には、インターネット接続システムが完成して、学生教職員全てにメールアドレスが配布可能となり、ダイアルアップながらも、本学構成員全員が、希望しさえすれば、本学ベースでE-mailを利用できる環境が整ったのである。そして九六年には、担当部署を**MNC**として拡大改編すると共に、全学部にコンピュータルームが設置され、そこに設置された端末は合計一五〇〇台を数えた。

この時期では、八六年にBITNETに加入してメールシステムを始動させた点と、九五年に学生を含めて構成員全員にメールアドレスを配布可能となった点、そして担当部署が現在のMNCとして確立された点が、画期的であったと考えられる。筆者の個人的経験では、九二年頃から学部ゼミ学生にPC利用によるゼミ論作成指導を行っていたが、九五年のアドレス配布により、PC利用への学生の自覚が高まったことを明確に記憶している。

（二）第一期情報化推進プログラム（一九九七―二〇〇五年度）

九五年に策定完了した**第一期プログラム**は、「二一世紀世界の構築と貢献を目指して」の標題の下、三年毎の実施計画に具体化され、それぞれ、情報ネットワークシステムの構築、教育・研究スタイルの変革、及びグローカルユニバーシティの実現を目標に掲げた。[4] 九七年にWaseda-Netメールシステムが稼動し、当該年度の**学部新入生**から、**全員にメールIDを発行**し、**全員にコンピュータセミナーを開催**して、学生のインターネット利用が本格化した。更に

九八年には、この新入生へのメールID一括発行を大学院に拡張し、全学生メールID・インターネットリテラシー保持の基礎を醸成すると同時に、教員もPC一人一台環境を実現し、教員共通プラットフォームを確立したのである。九九年には、オンディマンド型講義の原型が試行されると共に、職員事務PCがインターネットに接続され、OWSとインターネットが併用できる環境が整った。また、二〇〇一年には、これまでMNCが実施してきた本学構成員全体へのサポート部署が、**ITセンター**として独立・拡充され、ついに〇二年には、後述するように、インターネット上のブラウザを利用した**Waseda-Netポータルが稼動**し、教職員と学生**全員に共通した情報プラットフォームの確立**を見たのである。また同年には、Waseda-Netポータルによる科目登録が開始され、試行錯誤の結果、〇五年には登録業務が成功し、加えてこの間、〇三年にオンディマンド講義による遠隔教育だけで卒業できる人間科学部通信教育課程が発足した。

この時期では、九七年にID一括発行とコンピュータセミナーが新入生全員に実施されたことで、学生のリテラシーが従来以上に確実なものとなった点、そして、何よりも〇二年にWaseda-Netポータルが確立された点が、一つのエポックだろう。これにより、インターネットを通じた学生との、また学生間のコミュニケーションが確実となり、それを通じた学生のリテラシーの向上が図られるという、好循環が発生した。丁度この第一期プログラム期での情報化進展を、学内設置PCの台数と関連共通端末室の整備の観点から示したものが、表1である。一九九七年に一万四〇〇〇台強であった端末数が、二〇〇五年にはほぼ倍の二万八〇〇〇弱へと発展した点が、象徴的である。

（三）第二期情報化推進プログラム（二〇〇六―二〇一四年度）

この**第二期プログラム**は、「World-Class Universityを目指して」との標題の下、やはり三年毎の実施計画ベースで、いつでもどこでも安心して学べる環境の提供、社会と連携した多様な教育研究の提供、そして世界レベルの教育研究の提供が、各実施計画の具体的目標となっている。現在は第一次実施計画期間に当たるが、まず〇六年には、**早稲田ポータルオフィス**を設置し、従来のITセンター機能に加え、全学提供科目の履修支援機能を持たせて、サポート体制を強化・拡充した。そして、〇七年には、後述する**Course N@viが稼動**し、学生の学修環境が一層整備された。

表１　学内設置PC台数と関連端末教室

年度	教員用	学生用	WINE端末	事務用	研究室用	主な学部共通端末室 整備状況
1997	700	2,203	378	1,302	9,738	西早稲田・戸山キャンパス端末増強
1998	1,624	2,934	383	1,340	9,828	14号館・22号館竣工
1999	1,624	3,210	402	1,382	10,372	36号館竣工
2000	1,624	3,249	409	1,387	12,874	
2001	1,624	3,509	417	1,428	13,289	新学生会館竣工
2002	1,624	3,604	421	1,498	15,382	
2003	1,624	3,984	480	1,580	16,382	北九州キャンパス 開設 川口芸術学校 開設
2004	1,624	4,293	513	1,655	18,480	本庄リサーチパーク 開設 日本橋キャンパス 開設 国際教養学部端末室 設置 法務研究科端末室 設置
2005	1,660	4,933	524	1,701	18,830	8号館竣工 会計研端末室 設置

出典：資料４　スライド４から引用。

以上三期を小括すれば、端末機器の拡充が象徴するように、インフラ充実を漸進させつつ、メールシステム構築を契機としながら、学生・教職員全員共通のプラットフォーム確立に至り、関連事務部署の改編に合わせて、セミナー・サポートシステムを強化する、という意味で、本学の情報化は、過去二〇年以上に亘り確実に進展してきた、と言えよう。こうした情報化展開の中で醸成され、今日一定の水準に達したと思われる学生支援の現状を、次節で紹介したい。

三　学生支援の現状

（一）Waseda-Netポータル

Waseda-Netポータルは、本学構成員全員に対する情報支援システムであるが、学生、職員、教員という立場毎に、プラットフォームの設計が、かなり異なっている。図１は、学生用のものである。メールアドレスをＩＤとして、特定のサイト[5]からログインすると、この画面に到達する。

左側の八本のラインが、支援項目を示している。本稿で特に重要となるのは、授業、学生生活、国際交流・留学、キャリアコンパス、Profile、及びシステム・サービスだ

ろう。授業の項目でのサブカテゴリーは、授業支援、履修準備、進級・卒業、授業評価、証明書、研究情報、研究管理の七項目である。**授業支援**では、後述のCourse N@viへのリンクの他、遠隔教育関連が主であり、**履修準備**では、授業登録、休講・補講掲示、個別指導予約、教職等資格に繋がる。**進級・卒業**では、成績照会が可能であり、**証明書**では、別途各校舎に設置された発行機に関する情報が摂取できる。**授業評価**は、この項目から各履修科目の評価を特定のフォーマットに従って行い、結果も閲覧できる。また、**研究情報**と**研究管理**では、関連研究プロジェクトに関する情報が得られる。なお、ログインした段階で、当該学生が誰であるか確認できるため、本人に関連する情報は本人にしか分かり得ないのと同時に、一般的情報は一覧形式で提示されている。従って、学生個々の必要に応じた情報支援が行われている。

次に学生生活では、入学試験監督員募集、学生生活支援、学生参加プログラム、広報・公聴、奨学金、学費、環境、安全・衛生、ハラスメント防止の九項目がある。この内本稿で特筆すべきは、まず学生生活支援だろう。学生部の担当領域と直結して、学生生活一一〇番という**相談窓口**に始まり、**アルバイト情報**、**学生寮**、**セミナーハウス**、**学生健**

図１　Waseda-Netポータル学生用画面

出典：https://www.wnp.waseda.jp/portal/portal.php

保、**サークル活動**一般と教室利用及び補助金申請、**学費**案内、大学の環境・安全衛生・ハラスメント防止政策等に関する情報が得られる。特に興味深いのは、キャリアセンターが実施する**学生生活調査**で回答を画面から直接入力でき、その調査結果が公表されている点、加えて、**奨学金**に関して、日本学生支援機構を含めた一般情報を見た上で、**申請フォームをダウンロード**できる点であろう。さらに国際交流・留学では、四〇〇校を超える交換留学協定を背景としながら、多様な**留学方式と選考**に関する情報の摂取をはじめとして、ここでも選考申請フォームのダウンロードが可能であり、**留学決定後の準備**、及び**留学帰国後のケア**等が為される。

そして上記を利用した学生生活を経て、進路を選択する段階に及べば、キャリアコンパスでは、**進路希望登録**の上で、**求人情報**が入力ベースで摂取可能であり、関連**イベント情報**、OG／OB**体験記**等が閲覧できる上に、最終的に決定した際の**進路報告**を入力できるシステムとなっている。こうしたWaseda-Netポータル利用の前提として、Profileにおいて、学生個人の**基本情報の入力と変更**、そして**暗証番号の管理**が行われると共に、システム・サービスでは、学生が設定する**メーリングリスト**の管理、各種**アンケート実施**、情報倫理情報の提供と**情報倫理テスト**の実施、**コンピュータセミナー情報**提供等が可能となっている。また、図1が示す通り、毎日の学内ニュースが掲示されると共に、Portal利用に必要なガイド情報が摂取できる。

以上、学生生活の多くの部分を支援するWaseda-Netポータルを利用することは、本学学生としてはいまや必須の能力であり、これを使いこなすことで、さらにリテラシーの向上が図られている、と解釈して間違いないだろう。

(二) Course N@vi

Waseda-Netポータルの授業の項目からのリンクだけで、Course N@viに到達できる。ここでも、やはり学生、職員、教員によって、マスクは異なっているが、図2は、学生用画面である。ログインすると、本人が当該学期に登録している科目一覧が示される。また過去の履修科目や登録したが未開講の科目も示され、本人の履修状況が瞭然となる。この画面からは、各科目をダブルクリックすることで、最新関連情報が摂取できる。ここでの内容の広がりは、担当教員の設計次第であるが、最大限で、当該科目に関して、**資料コンテンツの提示**、**小テスト・アンケート・BBSによるディスカッションの実施**、及び**レポートの提出**が可能

図2　Course N@vi学生用画面

出典：https://cnavi.waseda.jp/flash.php

となる。従って、このCourse N@viを利用すれば、教場におけるリアルな講義の場合でも、時空を越えて情報交換が可能となる。

さらに、図2の画面左側の七本のラインが示すとおり、まず、履修している科目の**シラバスの提示**、履修科目の**授業評価の実施**が可能である。さらに、Oicとは、On-demand internet classの略称であり、**遠隔教育科目**[6]を登録している場合には、ここから受講画面に移動できる。Tutorial Siteからは、〇二年に開始された学生四名一組で一名の語学教員から指導を受けるテュートリアル講義に関して、情報が得られる。そして、未受講・未提出一覧からは、学修履歴の確認が可能となっている。

このように、Course N@viは、各学生の学修を根底から支援するプラットフォームとなっており、その利用の仕方次第で、教育内容の構築・理解・活用の水準が、飛躍的に向上する可能性があるだろう。

四　今後の展望[7]

本学における情報化の枠内での学生支援は、Waseda-NetポータルとCourse N@viの組合せを中心に今後展開さ

れると思われるが、その基盤として、情報資産の機密性・完全性・可用性を保障するルール・モデルの確立や、情報インフラの一層の整備、支援・管理体制の充実という点で、**サイバーセキュアキャンパスの提供**が、第一の目標となっている。その上で、例えば、学生個々のキャリアプランや関心領域を入力して示される推薦科目を一覧にし、各人の目標設定に応じた履修科目選択を可能にしたり、各学生の入学から卒業までの生活全般を一元的に記録し、各人のテーマに沿った学修を長期的かつ効率的に進めるシステムを構築したりする等、**学修全般を包括した支援システム**の確立が目指されている。その途上では、利用する学生に対して、情報セキュリティ教育、資格取得や実務能力認定に直結した情報教育等、情報教育全般の拡充と、情報化関連の後方支援システムの充実が図られるだろう。

このように、情報化との関連で本学の学生支援を見ると、Waseda-NetポータルとCourse N@viの確立によって、学生支援は学修全般と密接不可分の関係となったと言えるだろう。今後は、個々の学生支援内容の充実が、プラットフォームであるWaseda-Netポータルの上で、ワンストップサービスとして学生に実感されていくに違いない。

その結果、学生個々は、学修とその他の学生生活において、常にプラットフォームとしてのWaseda-Netポータルを活用し、個別的な問題を克服しつつ、自らのキャリア設計を総合的に行える日が来る。これは、学生個々の人格形成に資するのみならず、本学における全般的教育効果の向上を招き、ひいては、日本社会への有為な人材の更なる輩出を意味しよう。情報化と学生支援の結びつきは、こうした意味で、大学による社会貢献の更なる水準向上に繋がることとなるだろう。

参考資料

1. 早稲田大学、一九九七、「早稲田大学情報化推進プログラム（一九九七〜二〇〇五年度）九ヵ年計画」http://www.waseda.jp/wits/INFO/waseda-info.html
2. ------、二〇〇五、「早稲田大学情報化推進プログラム（二〇〇六〜二〇一四年度）九ヵ年計画」http://www.waseda.jp/wits/INFO/newprogram.html
3. 早稲田大学教務部情報企画課、二〇〇七、「ＭＮＣ年表」（内部資料）。
4. ------、二〇〇六、「早稲田大学・情報化推進プログラム（二〇〇六―二〇一四年度）」、http://www.waseda.jp/wits/INFO/060804_proposal-ppt.pdf。

（1）学修内容そのものに関わる教育支援としては、シラバスhttps://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm?pLng=jpを、また学修のための情報収集である図書館関連については、http://www.wul.waseda.ac.jp/index-j.htmlを、それぞれ参照されたい。

（2）特に、同センター大西正泰氏の協力に与った。お名前を記し、ここに謝意を表したい。

（3）資料2、八―一五頁、及び資料3に基づいてまとめた。

（4）資料1を参照されたい。

（5）http://www.waseda.jp/jp/visitor/students/index.htmlを参照されたい。

（6）本学の遠隔教育全般に関しては、http://www.waseda.jp/dlc/を参照されたい。

（7）資料2、一六―二二頁、及び資料4に基づいてまとめた。

特集・情報化と学生支援